「ツベルクリン」ノ「エピクタン」反應ニ就テ

慶應義塾大學醫學部皮膚科泌尿器科學教室

教授 醫學博士 横 山 砧
醫學士 渡 利 文 夫

*Aus der Dermato-Urologischen Klinik der Medizinischen Fakultät der
Keio Gijuku Universität zu Tokio.*

Über die epicutane Tuberkulinreaktion.

von

Prof. Dr. K. Yokoyama und Dr. F. Watari.

Bei 20 Fälle von Hauttuberkulose, 21 Fälle von Urogenitaltuberkulose und 7 Kontrollfälle (6 nicht tuberkulöse Hautkranken und 1 Gesunde) haben wir die Epicutanreaktion nach Nathan u. Kallós und Pirquetsche Reaktion geprüft.

Die Ergebnisse sind wie folgende:

1) Bei Hauttuberkulotikern fiel die Epicutane Reaktion 75% positiv aus, während bei Fälle von Urogenitaltuberkulose 95.2% negativ. Kontrollfälle sind alle negativ.

2) Bei Fälle von Haut-sowie Urogenitaltuberkulose fiel die Pirquetsche Reaktion 90% positiv aus, dagegen bei 7 Kontrollfälle nur 1 positiv.

Die Erklärungen nach Nathan u. Kallós über Epidermidale Überempfindlichkeit erscheinen uns heute noch fraglich.

Aber mit unseren Ergebnisse konnten wir das betonen, dass in bezug auf Tuberkulin die Haut von Hauttuberkulotiker empfindlicher als die von Urogenitaltuberkulotiker ist.

本論文ノ大要ハ第35回日本皮膚科學會總會ニ於テ發表セリ。

緒 言

診断ノ目的ニ「ツベルクリン」ヲ應用スル所謂「ツベルクリン」反應ハ「ビルケー」氏皮膚反應並ビニソノ變法(Mc Neil, Feer, Petruschky, 佐藤, 鈴木)ヲ始メトシテ, 皮下注射法, 皮内反應(Mendel und Mantoux), 眼反應(Wolff-Eisner, Calmette), 鼻反應(Laffitte-Dupont und Molinier), 尿道反應(Oppenheim, Pagano, 市川, 森川), 直腸反應(Rutemann, Lissauer, Calmette, Breton), 耳反應(Tedeschi), 腭反應, 「ツベルクリン」軟膏(Moro und Doganoff)等頗ル多ク, 又皮膚ヲ何等損傷セシメズシテ只ソノ表面ニ「ツベルクリン」ヲ塗擦, 貼布或ハ滴下乾燥セシムルモノニ Spengler, Lignières, Lautier, Jadassohn, Blumenau,

Habetin, Wichmann, 齋藤, 野津, 大坪, 安藤等諸氏ノ報告アリ。

1931年以來 Nathan, Kallós 兩氏ハ數回ニ亙リテ Jadassohn, Bloch ノ皮膚機能試験法タル Lappchenprobe ヲ應用シテ一種ノ「ツベルクリン」貼布反應ヲ行ヒ, コレヲ「エピクタン」反應ト稱シテ該反應ハ皮膚結核患者ニ於テハ100%性陽成績ヲ得ルニ反シ, 肺, 腎臓等ノ内臓結核患者並ビニ非結核患者ニアリテハ陰性ニ終リ, 而シテ此陽性反應ハ epidermidale(epitheliare) Überempfindlichkeit ノ型式ヲトルモノナリト報告セリ。

Schmidt ハコレヲ追試シテ Nathan, Kallós ノ如キ好結果ヲ得ザリキ, 即チ尋常性狼瘡26例中陰性5例, 50%溶液ニテ弱陽性2例, 非結核性皮膚疾患45例中陽性10例ノ成績ヲ舉ゲテ, 然カモ兩氏ガ本反應ヲ epitheliare Überempfindlichkeit ノ證在ナリトスル說ハ尙早ナリト發表セリ。ソノ他 Nathan, Kollós ノ成績乃至所說ニ反對ヲ唱フモノニ Konrad, Sipos, Urbach, 北村, 田崎, Poul Bonnevie 等アリ。

余等ハ Nathan, Kollós ノ舉ゲタル成績ニ興味ヲ感ジタルタメ, 昭和9年7月以降昭和10年11月末日迄我科外來ヲ訪レタル患者乃至入院患者ノ中, 皮膚結核症20例(假リニ此中ニ紅斑性狼瘡3例ヲモ含ム), 泌尿生殖器結核症21例, 非結核性疾患7例ニ就キ本反應ヲ行ヒ, 同時ニ「ビルケー」氏反應, 受動的移行試験(Prausnitz- Küstner, Urbach- Königstein)等ヲ施行セリ。

1 検査方法

1錢銅貨大又ハソレヨリ稍小ナル「リント」ヲ1%, 10%, 25%, 50%ノ「舊ツベルクリン」約0.3cc—0.5ccニ浸シ被檢者ノ豫メ清拭セル上膊ニ貼布シ同時ニ反對側上膊ニ「ビルケー」氏反應ヲ施行セリ。貼布セル「リント」ハ24時間後ニ除去シ入浴セシメズ約1週間ニ亙リ觀察セリ。

「ビルケー」氏反應ハ24時間, 48時間後ニ於テ判定セリ。

「エピクタン」反應ハ該部ニ發赤, 丘疹, 乃至小水泡ヲ生ゼルヲ以テ陽性トセリ。(寫眞參照, 皮膚結核患者第4例ノ陽性成績)

對照ニハ生理的食鹽水(生食)及ビ「5%グリセリンブイヨン」(5%グ・ブ)ヲ以テセリ。

出現日數ハ検査ヲ施行セル翌日ヲ以テ第1日ト算定セリ。

「エピクタン」反應

II 皮膚結核患者ニ就イテ

イ) 陽性率ニ就テ 皮膚結核並ビニ類疾患20例ニ就キ施行セル結果ハ第1表ノ如シ。

第 1 表

症例	姓	性	年齢	診 断	發病ヨリ野査 マデノ期間	「エピクタン」反應				對 照		「ビルケ ー」氏反 應	検査ヨリ出現 マデノ日數
						1%	10%	25%	50%	生食	5% グフ		
1	男神	♂	31	陰莖結核疹	約 10 年	—	/	/	/	—	/	++	
2	井村	♂	26	結核性潰瘍	〃 5 ヶ月	+	/	/	/	—	/	+++	5 日
3	岡林	♂	34	圓盤狀紅斑性狼瘡	〃 1 週 間	—	/	/	/	—	/	++	
4	伊關	♀	32	「バザン」氏硬結性紅斑	〃 10 ヶ月半	+	+	/	/	/	—	+++	1%, 10% 共 1 日
5	岩瀬	♀	36	「バザン」氏硬結性紅斑	〃 3 年	/	/	+	/	/	—	+++	1 日
6	加藤	♀	26	「バザン」氏硬結性紅斑		/	/	—	+	/	—	++	1 日
7	牛頭	♀	26	尋常性狼瘡	〃 1 年 9 ヶ月	/	/	—	—	/	—	—	
8	田中	♂	7	皮膚腺病	〃 6 ヶ月	/	/	+	+	/	—	+	25%, 50% 共 2 日
9	長瀬	♂	42	皮膚疣狀核結	〃 18 年	/	/	+	+	/	—	+++	25%, 50% 共 4 日
10	鈴木	♀	18	皮膚疣狀核結	〃 3 年	/	/	—	—	/	—	+++	
11	小出	♀	37	瘰癧狀丘疹狀結核疹	〃 2 年	/	/	—	+	/	—	++	1 日
12	高井	♀	19	紅斑性狼瘡	〃 1 年 6 ヶ月	/	/	+	+	/	—	+++	1 日
13	芦澤	♂	18	尋常性狼瘡	〃 2 年	/	/	+	+	/	—	+	25%, 50% 共 1 日
14	山岬	♀	26	瘰癧性丘疹狀結核疹「バザン」氏, 硬結性紅斑	〃 20 日	/	/	+	+	—	/	+++	25%, 50% 共 2 日
15	牛窪	♂	20	顔面播種狀粟粒性狼瘡	〃 2 ヶ月半	/	/	—	—	—	/	—	
16	大島	♀	28	紅斑性狼瘡	〃 1 年 7 ヶ月	—	/	+	+	/	—	+++	50% 1 日 25% 2 日
17	藤崎	♀	21	瘰癧性丘疹狀結核疹	〃 4 年	—	—	+	+	/	—	+++	50% 1 日 25% 3 日
18	松原	♂	28	顔面播種狀粟粒性狼瘡	〃 5 ヶ月	—	—	—	+	/	—	+	3 日
19	山崎	♀	32	尋常性狼瘡	〃 2 年 2 ヶ月	—	+	+	+	/	—	+++	50%, 10% 1 日 25% 2 日
20	仲西	♀	34	瘰癧性丘疹狀結核疹	〃 2 ヶ月	/	/	+	+	—	/	+++	1 日

第16, 17, 18, 19例ニ於テハ1%, 10%及ビ25%, 50%ヲ2回ニ施行セルモ他ノ症例ニ於テハ各濃度ヲ以テ同時ニ施行セリ。

反應陰性ナリシハ1%ヲ以テ施行セル第1, 第3例 25%, 50%ヲ以テ施行セル第7, 第10, 第15例ノ計5例ナリ。

「ビルケー」氏反應ノ陰性ナリシハ「エピクタン」反應モ陰性ナリシ第7, 第15例ノミナリ。

ロ) 濃度ト陽性率トノ關係 「舊ツベルクリン」濃度ト陽性成績トノ關係ハ第2表ノ如シ。

僅少ナル症例ナルヲ以テ斷定的ニハ言ハレザルモノ
ノ濃度ニ比例シ陽性率増加ス。即チ50%ニテ15例中12
例(80%), 25%ニテハ16例中10例(62.5%)陽性ナ
リ。

ハ) 反應出現日數ニ就テ 反應出現迄ノ日數ト濃度
トノ關係ハ第3表ノ如シ。

25%溶液ニ於テ2日以内ニ出現セルモノ
80%ニシテ50%ニ於テハ83.4%ヲ示セリ,
而シテ50%ニ於テハ第1日ニ出現セルモノ
ナリ。

即濃度ト出現日數ハ大體ニ於テ反比例
スルモノノ如シ。

第 2 表

	陽 性	陰 性	合 計
1 %	2 (25 %)	6 (75 %)	8
10 %	2 (50 %)	2 (50 %)	4
25 %	10 (62.5 %)	6 (37.5 %)	16
50 %	12 (80 %)	3 (20 %)	15

第 3 表

	1 日	2 日	3 日	4 日	合 計
1 %	1				2
10 %	2				2
25 %	4 (40 %)	4 (40 %)	1 (10 %)	1 (10 %)	10
50 %	8 (66.7 %)	2 (16.7 %)	1 (8.3 %)	1 (8.3 %)	12

小

括

以上ヲ小括スルニ皮膚結核患者ニ於テハ「エビクタン」反應ハ「ビルケー」氏反應ニ比シ陽性率
ハ稍々劣レリ。然レドモ「エビクタン」反應ニ於テモ高濃度ヲ以テ施行セバ陽性率モ高マリ反應
出現モ早キモノノ如シ。

III 非皮膚結核性疾患ニ就テ

余等ハ「エビクタン反應」ガ皮膚結核ニ特異ノモノナリヤ否ヤヲ知ランガ爲泌尿生殖器結核21
例, 非結核性疾患7例ニ就キ同一方法ヲ以テ施行シ觀察セリ。

イ) 泌尿生殖器結核患者ニ就テ 泌尿生殖器結核疾患即腎臟及ビ膀胱結核, 副睪丸結核, 攝
護腺結核患者, 及ビ寒性膿瘍ノ21例ニ就キ施行セル結果ハ第4表ノ如シ。即陽性反應ヲ呈セル
ハ第13例ノ攝護腺結核ノ1例ノミニシテ21例中4.8%ニ過ギズ。

本例ニ於テハ25%, 50%共ニ陽性反應ヲ呈シ, 50%ニテハ1日25%ニテハ2日ニテ出現セリ。

「ビルケー」氏反應ニ於テハ21例中施行セザリシ1例ヲ除キ陰性ヲ呈セルモノハ第16, 第21例
ノ2例ノミナリ。

即泌尿生殖器結核ニ於テハ「エビクタン」反應ハ大多數陰性ニ終リ「ビルケー」氏反應ハ大多數
陽性ヲ示セリ。

ロ) 非結核性疾患ニ就テ 非結核性疾患6例及ビ健康人1例ニ就テ兩反應ヲ施行セル結果ハ
第5表ノ如シ。

「エビクタン反應」ニ於テハ7例共陰性ニシテ「ビルケー」氏反應ニ於テハ施行セザル1例ヲ除
キ6例中第1例ノミ強陽性ヲ示セリ。

第 4 表

症例	姓	性	年齢	診 断	エビクタン反應				對 照		ビルケ-氏反應	検査ヨリ出現マデノ日數
					1 %	10%	25%	50%	生 食	5 % グ・ブ		
1	久 保	合	40	腎 臓 結 核	—	/	/	/	—	/	+	
2	佐 藤	早	22	腎 臓 結 核	—	/	/	/	—	/	+	
3	小 山	合	28	腎 臓 結 核	—	/	/	/	—	/	+	
4	小 澤	早	22	腎 臓 結 核	—	/	/	/	—	/	+	
5	幸 福	合	31	腎 臓 及 攝 護 腺 結 核	—	—	/	/	/	/	/	
6	平 野	合	35	腎 臓 結 核	—	—	/	/	/	/	+	
7	田 山	合	33	腎 臓 結 核	—	—	/	/	/	/	+	
8	嵩	合	33	寒 性 膿 瘍	—	—	/	/	/	/	+	
9	豊 田	合	36	副 辜 丸 結 核	—	—	/	/	/	/	+	
10	山 田	合	33	副 辜 丸 及 攝 護 腺 結 核	—	—	/	/	/	/	+	
11	仲 町	合	32	腎 臓 及 攝 護 腺 結 核	—	—	/	/	/	/	+	
12	深 野	合	41	腎 臓 及 攝 護 腺 結 核	/	/	—	—	/	/	+	
13	春 木	合	29	攝 護 腺 結 核	/	/	+	+	/	/	+	50% 1日 25% 2日
14	沼 田	合	30	副 辜 丸 結 核	/	/	—	—	/	/	+	
15	川 上	合	17	副 辜 丸 結 核	/	/	—	—	/	/	+	
16	谷 垣	合	39	腎 臓 及 副 辜 丸 結 核	/	/	—	—	/	—	—	
17	野 崎	合	43	腎 臓 及 副 辜 丸 結 核	/	/	—	—	/	—	+	
18	吉 益	合	40	腎 臓 結 核	/	/	—	—	/	—	+	
19	河 田	合	31	副 辜 丸 結 核	/	/	—	—	/	—	+	
20	有 賀	早	38	腎 臓 結 核	—	—	—	—	/	—	+	
21	鈴 木	合	33	腎 臓 及 副 辜 丸 結 核	—	—	—	—	/	—	—	

第 5 表

症例	姓 名	性	年齢	診 断	「エビクタン」反應				對 照		ビルケ-氏反應
					1 %	10%	25%	50%	生 食	5 % グ・ブ	
1	金 子	早	55	護 謨 腫	—	/	/	/	—	/	+
2	小 辻	早	59	神 經 性 皮 膚 炎	—	—	/	/	/	/	—
3	藤 生	早	37	扁平 紅 色 苔 癬	—	—	/	/	/	/	—
4	谷 垣	早	36	健 康	/	/	—	—	/	—	—
5	永 井	合	29	淋 菌 性 尿 道 炎	/	/	—	—	/	—	—
6	杉 本	合	32	淋 菌 性 尿 道 炎	/	/	—	—	/	—	—
7	山 田	合	28	淋 菌 性 尿 道 炎	/	/	—	—	/	—	—

小 括

上述ノ如ク結核性皮膚疾患ニ非ラザル28例ニ於テ「エピクタン」反應ハ僅1例ニ於テ陽性ヲ示セルノミニシテ皮膚結核ニ於ケルト全然反對ナル結果ヲ得タリ。

IV 移行試験ニ就テ

移行試験トシテハ Prausnitz-Küstner 反應及ビ Königstein-Urbach 氏法ヲ施行セリ。

即皮膚結核患者ノ「エピクタン」反應陽性ナリシ第4例伊關, 第17例藤崎, 第18例松原, 第19例山崎ノ血清及ビ發泡液ヲ以テ「エピクタン」反應陰性ナリシ淋菌性尿道炎ノ3例, 副睪丸結核ノ2例, (第1, 第4, 第5表參照)ニ移行試験ヲ行ヘリ。其結果ハ第6表ノ如シ。

第 6 表

症 例	性 名	姓	年 齡	診 斷	移 行 試 験						對 照				ビ ル ケ ー 氏 反 應
					血 清			發 泡 液			血 清		生理的食鹽水		
					早 反 應	期 應	24時	早 反 應	期 應	24時	早 反 應	期 應	24時	早 反 應	
1	永 井	合	29	淋菌性尿道炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	/
2	杉 本	合	32	淋菌性尿道炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	河 田	合	31	副 睪 丸 結 核	+	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
4	山 田	合	28	淋菌性尿道炎	—	—	/	/	—	—	—	—	—	—	—
5	川 上	合	17	副睪丸及精系 結核	—	—	/	/	—	—	—	—	—	—	+

即第1例ニハ伊關ノ血清, 發泡液ヲ用ヒ, 第2, 第3例ニハ山崎ノ血清, 發泡液ヲ第4例ニハ松原ノ血清ヲ第5例ニハ藤崎ノ血清ヲ用ヒテ施行セリ, 而シテ第1例ニハ10%ノ「舊ツベルクリン」ヲ, 残りノ14例ニハ50%ノ「舊ツベルクリン」ヲ用ヒタリ。

對照試験トシテハ非結核性患者ノ血清及ビ生理的食鹽水ヲ以テセリ。

以上ノ結果ハ只「ビルケー」氏反應陽性ナリシ副睪丸結核ノ第3例ニ於テ早期反應陽性ヲ呈セルノミニシテ, ソレ以外ハ總テ陰性ニ終レリ, 因ニ Leone ガ結核患者ノ血清ヲ結核患者ノ皮内ニ注射シテ炎症性ノ反應ノ惹起スルヲ見, 又 Sipos モ略々類似ノ實驗ヲ行タル事實ヲ考慮セバ余等ガ上記移行試験ニ於テ副睪丸結核患者ニ認メタル只1例ノ陽性早期反應ハ單ナル移行試験陽性トハ言ヒ難ク, 爾後ノ研究ヲ要スベキ問題ナルコトヲ附記ス。

總 括 及 ビ 考 按

以上總括スルニ「ピクタン」反應ハ皮膚結核ニ於テハ75%陽性ヲ示シ, 之ニ反シ泌尿生殖器結核患者ニ於テハ95.2%陰性ヲ, 非結核性疾患ニ於テハ100%陰性ヲ示セリ。

「ビルケー」氏反應ハ皮膚結核, 泌尿生殖器結核ニ於テハ共ニ90%陽性ヲ示シ非結核性疾患ニ於テハ7例中1例陽性ヲ示セリ。

皮膚結核ニ於テハ「エピクタン」反應, 「ビルケー」氏反應共ニ陰性ナリシモノ2例アリタリ。

而シテ「エビクタン」反應ニ於テ1%ノミヲ以テ施行セル2例ヲ除ケバ皮膚結核ニ於テハ「ビルケー」氏反應ト略々一致セル成績ヲ得タリ。

之ヲ要スルニ或程度迄ハ Nathan u. Kallós 兩氏ノ成績ニ一致シ皮膚結核ニ於テハ多數ノ陽性成績ヲ、泌尿生殖器結核ニ於テハ陰性成績ヲ得タリ。

勿論余等ハ之ヲ以テ epidermidale Überempfindlichkeit ノ型式云々ナル所謂 Nathan u. Kallós ノ所説ニハ賛意ヲ表シ能ハザルモ、只余等ノ得タル實驗成績ヨリシテ、皮膚結核患者ノ皮膚ハ泌尿生殖器患者ノソレニ比シテ「ツベルクリン」ニ對シ遙カニ敏感、換言セバ mehr allergisch ナリト言ヒ得ルナリ。

文

献

- 1) Bonnevie, P: Zentralbl. f. H. u. G. Krh. Bd. 50. H. 13. 1935. 2) H. Hruszek: Derm. Wachr. Bd. 99. Nr. 37. 1934. Bd. 101. Nr. 42. 1935. 3) J. Konrad: Wien. Klin. Wschr. Nr. 36, 37, 38. 1932. 4) Nathan u. Kallós: Klin. Wschr. 10, Jahrgang Nr. 52. 1931. Arch. f. D. u. S. Bd. 167. H. 1. 1933. Derm. Ztschr. Bd. 64. 1932. Zentralbl. f. H. u. G. Bd. 50. H. 3/4. 7/8. 5) H. Rackwitz: Derm. Wschr. Bd. 99. Nr. 40. 1934. 6) P. W. Schmidt: Klin. Wschr. 11. Jahrgang Nr. 28. 1932. 7) H. Serter: Münch. Med. Wschr. Nr. 15. 1924. 8) K. Sipos: Derm. Wschr. Bd. 98. Nr. 25. 1934. Arch. f. D. u. S. Bd. 169. 1934. 9) R. Volk: Handbuch der H. u. G. Krh. (Jadassohn) Bd. X/1. 10) Fuss: Zentralbl. f. H. u. G. Bd. 41. 1932. 11) R. Sunkel: Derm. Wschr. B. 100. Nr. 13. 12) Urbach: Zentralbl. f. H. u. G. Bd. 51. H. 6. 1935. 13) 安藤建治: 兒科誌, 424號。 14) 北川精一, 田崎龜夫: 皮尿誌, 35卷, 2號。 15) 野津 謙, 大坪佑二: 兒科誌, 423號。 16) 齋藤 潔: 兒科誌, 昭和9年, 412號。 17) 鈴木 保: 兒科誌, 昭和9年, 411號。